#### 報告事項の検討プロセスについて

# 社外アドバイザーからの 意見を参考にしながら 報告事項を検討・選定しました



Step

昨今の 社会的要請や 社会が抱える 問題について 検討しました

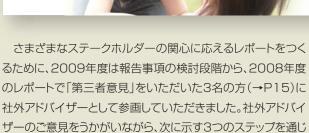


- 経済・環境・社会の調和
- 個人の自立・人間性尊重
- ●ダイバーシティ
- ワークライフバランス
- 企業不祥事·偽装問題
- 製品·施設の事故
- 不当取引
- 製品・食品の品質・安全
- 製品·施設などの ユニバーサルデザイン
- 食料自給率
- 資源の枯渇
- 資源·エネルギーの 循環利用

- 地球温暖化
- 生態系保全·生物多様性維持
- 大気·水質·土壌·地下水汚染
- 強制労働·児童労働
- 海外事業所の現地化
- 雇用創出
- 雇用の公正性
- 同一価値労働同一賃金
- 過重労働
- 労働安全衛生
- 社会保障制度
- 人材育成·訓練
- 高齢者雇用問題

- コミュニティの希薄化
- 地域文化保全·尊重
- 地域経済開発
- 情報公開
- 情報セキュリティ
- 個人情報保護 ※順不同





#### Step 1

まず、GRIガイドライン第3版、ISO26000ドラフト案や環境 省の環境報告書ガイドライン、SRI調査項目などを参考にして、 昨今の社会的要請や社会が抱える問題を検討しました。政府·企 業・個人がそれぞれに、または連携して対応・解決していくべき事 柄のうち、特に企業に帰すべきものと企業が解決などに貢献で きるものを、社外アドバイザーの助言をもとに上図のように抽出 しました。

て、報告事項を検討・選定しました。



# Step

セブン&アイグループが 取り組むべき 重要な課題を 選定しました



- ●内部統制強化
- コンプライアンスの浸
- 企業倫理の確立

- ●CSRマネジメントの強化
- 公正取引の推進
- CSR調達の推進
- 環境負荷の適切な把握
- 廃棄物の削減と循環型社会の構築
- ■エネルギー効率の向上と 再生可能エネルギーの導入
- ●生物多様性への対応
- ●環境に配慮した商品の提供
- 従業員の環境意識啓発
- 商品·サービスの品質·安全性の確保
- 安心して利用できる店舗・設備の整備
- ユニバーサルデザインの導入
- ●適切な情報提供
- ●お客様の声への誠実な対応

- ●育児·高齢者支援
- 地域活性化への協力
- 災害時の支援
- ●地域防犯対策

- 社員の能力向上
- 公正な評価·処遇

- ワークライフバランスの実現
- 多様な人材の活用

#### Step 2

次に、Step1で抽出したことをもとに、セブン&アイHLDGS. にとって特に重要と考える課題を洗い出しました。その過程で は、セブン&アイHLDGS.と各事業会社の事業特性をふまえ て、当社グループが取り組むべき課題、さらに事業などを通じて 社会的問題の解決に貢献できる取り組みとは何かという視点か ら優先順位をつけました。

これに社外アドバイザーからのご意見を加味して、重要と考え る取り組み課題を上図のように整理・分類しました。

#### 社外アドバイザーからいただいたご意見と対応の例

- ご意見 多くの食材を輸入に頼る日本で、食品の調達・製造過程で不 正や多大な環境負荷がないかは消費者の関心事である。
- 対応
  取引先と連携したCSR調達の必要性を再認識しました。
- で意見 CO2排出量削減策として、省エネルギーだけでなく、いわゆる グリーン電力など再生可能エネルギーの活用も重要である。
- 対応 「エネルギー効率の向上」とは別に「再生可能エネルギーの 導入」を重要な課題として選定しました。

#### 特性❶

お取引先数

約20,000社

※国内事業会社の直接取引社数(2009年 8月末現在)

約20,000社にのぼるお取引先 と連携・協力しています

#### 特性2

#### 店舗数とCO2排出量の推移



環境負荷増大を抑えながら出店を 続けることが重要です

#### 特性3

出店先都道府県数

約13,800店 43都道府県

※2009年2月末現在 出店地域に根ざした商品・サービ スを展開しています

#### 特性4

国内主要事業会社の パートタイマー比率



※2009年2月末現在

従業員の約7割がパートタイマー 多様な働き方を支援しています

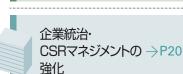
#### 内容



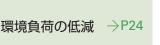
多種多様な多くのお取引先を持つ (特性 **0**) セブン&ア イHLDGS.は、公正な取り引きを徹底するとともに、お 取引先と連携して、安全・安心な商品を提供する責任が あります。サプライチェーン全体におけるCSR推進に ついて特集しました。

Step

課題ごとの構成とし、 記載項目を重要性の 高い活動に絞った レポートにしました



持株会社の責任を果たすための取り組みとして、セブ ン&アイHLDGS.を中心としたグループのガバナンス およびコンプライアンスの体制と、委員会組織による CSRマネジメント体制について報告しています。



事業活動の発展 特性② に比例して、環境負荷が増大 しないように管理していく責任があります。事業活動に ともなう環境負荷の適切な把握と、その低減に向けた 事業会社の主な取り組みを報告しています。

安全·安心な 商品·サービスの →P36 提供

製品事故・偽装事件が多発する中で、お客様の毎日の生 活に密着した商品を提供する小売業として、基本的な 品質·安全性の確保、適切かつ誠実なサービス·情報提 供などに関する取り組みを報告しています。



全国各地で地域に密着した事業 特性 ② を営んでいる当 社グループにとって、コミュニティの希薄化・少子化・高齢 化などの地域の抱える問題解決への貢献も重要な役割で す。地域活性化への協力を目指す取り組みなどを報告して います。



働きがいのある 職場づくり

→P60

パートタイマーを多く雇用している 特性 ① 企業グルー プとして、多様な働き方のできる、また働きがいのある 職場づくりは重要なテーマです。人事制度の整備・拡充 や従業員の能力向上支援などについて報告しています。

#### Step 3

こうした整理・分類結果に即して本レポートの章構成を決定し ました(上図参照)。また報告する項目は、各課題に関する取り組 みのうち、特に社会的関心が高く、重要性(マテリアリティ)が高 いものに絞りました。

#### 社外アドバイザーからいただいたご意見と対応の例

で意見 商品の安全と、トレーサビリティやサプライチェーンでの環 境配慮を関連づけて報告するとわかりやすい。

対応 小売業の大きな課題「サプライチェーンにおけるCSR」に ついて、特集としてまとめました。

で意見をテーマに関する各社の取り組み状況が明確になるように、 - 覧表を設けて成果と課題を自己評価すると良い。

対応「環境負荷の低減」「安全·安心な商品·サービスの提供」 「地域社会との共生」「働きがいのある職場づくり」につ いては、冒頭のページに主要事業会社の主な取り組み状 況の一覧表を記載しました。

で意見持株会社と各事業会社の責任区分を明確にすべき。

「企業統治・CSRマネジメントの強化」の章を設けて、グルー プを統括するセブン&アイHLDGS.の取り組み状況を報告 しました。

#### レポート全体やCSRへの取り組みに対して社外アドバイザーからいただいた主なご意見

### 辰巳菊子様からのご意見

(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 常任理事 環境委員長

自らの取り組みだけではなく、 取り組みに対するお客様の評価なども報告書に盛り込んだほうが良い。

「安心」は消費者にとって、自分の健康が安心なだけではなく、 商品の調達・製造過程などで「悪いことに加担しない」という安心などもある。 フェアトレード商品は、そうした問題への一つの取り組み手段になると思う。

各社共通の取り組みは、まとめたほうが読みやすい。





## 河口真理子様からのご意見

(株)大和総研 経営戦略研究所 経営戦略研究部長

実行できていないことも、課題として整理する必要がある。

各社の活動事例を報告するだけでなく、グループとして 今後取り組みを広げていくなどの方針・戦略も報告すべき。

> 地域社会との共生に関しては、今後、流通・小売業とは異なる セブン銀行の取り組みを報告していくことも検討してもらいたい。

# 緑川芳樹様からのご意見

バルディーズ研究会 共同議長グリーンコンシューマー研究会 代表

#### CSRは企業が社会問題を起こさず

社会的課題を解決することが基本であると考えられる。

社会の課題をベースに自社の課題を抽出するという発想は高く評価できる。

しかし社会的課題の採り上げ方はまだ十分ではなく、

今後の改善も必要である。

報告書全体を通して、中長期的な考え方に関する記載が薄い。 年度の目標、実績、自己評価、今後の目標をまとめたCSR総括表の記載が望まれる。

# ご意見を受けて

上記のご意見を受けて、そのいくつかを本レポートの改善に 活かしました。

- 取り組みに対する社外の評価の例として、関係するステー クホルダーからご意見・ご要望をうかがい、記載しました (→P67)<sub>0</sub>
- 事業の全体像と特徴をご理解いただくために、主要事業会 社の概要を一覧できるページを設けました(→P8-11)。

「一方、CSRについてのグループ全体の中長期的な目標の 明確化や達成までの具体的なプロセスなど、不十分な点は今 後の課題として改めて認識しました。一部事業会社における先 進的な取り組みは、グループ全体で共有し、さらに発展させると ともに、取り組みが遅れている部分については、具体的施策を 検討することで、セブン&アイHLDGS.全体のCSR活動を一 層深化させていきます。